



2021.9.23 thu
at Tokyo Metropolitan Theatre
Concert Hall

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

Subscription Concert 2021-2022

155

Takeshi Ooi

Conductor

PROGRAM | プログラム

主題と変奏 作品43a / A. シェーンベルク

[約12分]

Theme and Variations Op. 43a / Arnold Schönberg

交響曲 第3番 / V. ジャンニーニ

[約25分]

Symphony No. 3 for Band / Vittorio Giannini

第1楽章 力強く快速に Allegro energico

第2楽章 アダージョ Adagio

第3楽章 やや速く Allegretto

第4楽章 生き生きと速く Allegro con brio

休憩 Intermission [20分]

パッサカリア / A. リード

[約14分]

Passacaglia / Alfred Reed

交響曲 第3番 / A. リード

[約25分]

Symphony No. 3 / Alfred Reed

第1楽章 重々しさを十分に保って～煽るように速く Pesante e molto sostenuto～Allegro agitato

第2楽章 憧れをもってゆっくりと(しかし引きずらずに) Slowly, with longing (but not dragging)
ワーグナー《ボラッツィ主題》による変奏曲 Variations on the Porazzi Theme of Wagner

第3楽章 決然とした速さで Allegro deciso

注意

- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ・ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますので配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当回オフィシャルサイト掲載の《重要》感染症予防対策についての取り組みとお願いをご覧ください。

本公演に関するアンケートへご協力ください。



PROFILE | 指揮者プロフィール

大井剛史 (正指揮者) Takeshi Ooi Conductor



©K.Miura

1974年生まれ。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、99年同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。96年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。2000年～2001年、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者。2007年～2009年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。2009～16年ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、2009～13年山形交響楽団指揮者、2013～17年同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。このほかほとんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーとその誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。オペラの分野では、在学中より新国立劇場、東京二期会などのオペラ公演で副指揮者を務め、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮しデビュー、以降多くのオペラ作品を指揮するほか、ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」(バーンスタイン)も指揮。バレエの分野では「ロメオとジュリエット」(プロコフィエフ)などで新国立劇場バレエ団の公演を度々指揮、国内を代表するバレエ団やダンサーが一堂に会した「NHKバレエの饗宴」でも指揮を務めた。さらに、小松原庸子スペイン舞踊団や、野村萬斎、花柳壽輔、井上八千代といった日本舞踊界の名手たちと共演するなど、幅広い舞台芸術分野で活躍している。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

PROGRAM NOTES | 曲目解説—富樫鉄火(音楽ライター)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

生誕100年、リードと師の“初共演”

本年は、“吹奏楽の神様”のように称された、作曲家・指揮者、アルフレッド・リード(1921～2005)の生誕100年である。生涯で200曲以上の優れたオリジナル曲を生み、「吹奏楽」を独立した音楽ジャンルとして定着させた功績には多大なものがある。

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)とも縁が深い。1981年に定期演奏会の指揮者として初来日。以後、多くの共演を重ねてきた。《法華経からの三つの啓示》や《サリュテーションズ!》などの委嘱作も初演している。

本日のマエストロ、大井剛史(TKWO正指揮者)も、リードを愛し、何度となく取り上げている。たとえば2016年リリースのCD「アルメニアン・ダンス(全曲)／リード作品集」(ポニーキャニオン)は「レコード芸術」特選盤に選定されており、まさにリード演奏のオーソリティと言っても過言ではない。本日は、リードと師の曲が同一舞台上で演奏される、いわば“初共演”である。今年多い生誕100年記念コンサートの白眉となるであろう。

A.シェーンベルク

主題と変奏 作品43a

1933年1月、ナチス党のアドルフ・ヒトラー総統が、ドイツ首相に指名されるや、3月には、ベルリン芸術アカデミーの会議で、「ユダヤ人排除」が決定する。ここに、12音技法で知られる、同アカデミーのアルノルト・シェーンベルク教授(1874～1951)が出席していた。ユダヤ人の彼はその場で退席し、抗議の休職届を提出する。アカデミーはすぐに給与を停止、事実上の追放処分とした。名前こそ有名だったが、作曲家としては貧しいシェーンベルクにとって、これは死活問題だった。無収入となった彼は、持病の喘息を抱えたまま、同年10月、家族と共にアメリカへ亡命する。すでに59歳だった。

アメリカでは紆余曲折の末、ようやく南カリフォルニア大学などで教員の職を得た。その間、かねてより着手していた《ヴァイオリン協奏曲》や《室内交響曲第2番》などを完成させるが、新曲の委嘱は、アマチュア向けの調性音楽や映画音楽ばかりだった(ほとんどを断っている)。

やがて1943年になって、楽譜出版社「G.シャーマー社」のトップで、友人の作曲家、カール・エンゲル(1883～1944)から、「高校生向け吹奏楽曲」の委嘱が来た。エンゲルは、セミ・クラシック歌曲《海の貝殻》で有名だが、吹奏楽曲も書いていた。洗るシェーンベルクだったが、同社には、義理の息子(娘の夫)、フェーリクス・グライスレが勤務していたせいもあり、この委嘱を引き受ける。それが、本曲《主題と変奏》である。

編成は、金管に、コルネットⅠ・Ⅱ／トランペットⅠ・Ⅱ／フリューゲルホーンⅠ・Ⅱとあるほか、ユーフォニアムとは別にバリトン・パートがある点を除けば、ほぼ現代の吹奏楽編成とおなじ。

曲は、21小節の〈主題〉ではじまり、以後、〈第1変奏〉から〈第7変奏〉まで進み、〈フィナーレ〉で終わる「9部構成」。シェーンベルク特有の即物的な曲想ゆえ、わかりにくいのだが、構成は古典的なスタイルで、ほとんどの変奏は、〈主題〉と同じ21小節か、倍の42小節でできている。ところが、12音技法ではないものの、〈主題〉部には、ほぼ12音が登場する。冒頭もト短調ではじまるのだが、その後、目まぐるしく転調し、調性を忘れさせるような効果もある。スコアには、12音技法曲

に準じて、主題「P」(Principal Part)と、副主題「S」(Secondary Part)の指定がていねいに書き込まれている。

つまり本曲は、シェーンベルクなりに、「高校生」に、「わかりやすく」最先端の音楽を提供するつもりだったと思われる。ところが——G.シャーマー社勤務の義理の息子グライスレが、作曲途中のスコアを見て困惑した。これを高校生が演奏できるとは思えなかった(彼は、吹奏楽の経験者でもあった)。曲がボツとなって義父に作曲料が入らなくなることを懸念したグライスレは、管弦楽版も同時に書いておくことを提案した。よって本曲は、吹奏楽版(作品43a)の直後に、管弦楽版(作品43b)も完成している。

案の定、初演は管弦楽版が先となった(1944年10月、クーセヴィツキー指揮／ボストン交響楽団)。吹奏楽版の初演は戦後になってからだった(1946年6月、リチャード・フランコ・ゴールドマン指揮／ゴールドマン・バンド)。いまでは、シェーンベルク唯一の吹奏楽曲にして、音楽史に残る名曲として知られている。

なお、1984年3月、フレデリック・フェネルがTKWOの常任指揮者就任記念演奏会(第34回定期)で、前半の最後に取り上げたのが、本曲であった。

余談だが、1944年に、アメリカでもう1曲、重要な吹奏楽曲が誕生している。当時22歳のアルフレッド・リードによる《ロシアのクリスマス音楽》である(出版は1968年)。当時リードは空軍バンドで大量の楽曲を吹奏楽用に編曲していた。この時期に書かれた、リードの事実上のデビュー作だ。太平洋戦争末期、日本が追い詰められていた時期に、海の向こうでは、こういった新しいタイプの吹奏楽曲が次々と生まれていたのである。

V.ジャンニーニ 交響曲第3番

前述のように、アルフレッド・リードは、戦時中、空軍バンドに所属していた。そして終戦で除隊となった1946年、ジュリアード音楽院に入学し、あらためて作曲を学ぶ。そのときの教師が、ジャンニーニである(以前より縁があり、いつか正式に師事して学びたいと考えていた)。

ヴィットリオ・ジャンニーニ(1903～1966)は、フィラデルフィアの音楽一家の家に生まれた。父はイタリアからアメリカに移住してきたテノール歌手で、母親はヴァイオリニスト、姉も声楽家として成功していた。

そんな環境で育ったヴィットリオ少年は、ミラノのヴェルディ音楽院に留学してヴァイオリンや作曲を学んだ。帰国後もジュリアード音楽院に学び、その後は同学院などで教職に就きながら、多くの作品を発表した。特にオペラが有名で、ホーソーンの小説を原作とする《緋文字》(1937)や《美女と野獣》(1938)、シェイクスピア原作の《じゃじゃ馬ならし》(1953)などで知られる。そのほか、交響曲やピアノ協奏曲、声楽曲、室内楽曲も多く書いた。

当時、すでにジョン・ケージやブーレーズ、シュトックハウゼンら最先端の音楽が席卷していたが、彼は決して前衛にはしることなく、終生、伝統的な形式や調性による音楽を生みつけた。自身も「わたしは作曲するとき、“～イズム”には従わない」と断言している。リードは、ジャンニーニのこういう姿勢に惹かれたのかもしれない。

1950年代に入り、フレデリック・フェネルを中心に、ウインド・アンサンブルが注目を浴び始めると、ジャンニーニにも、吹奏楽曲の注文が来るようになった。その結果、晩年になって、初めて吹奏楽曲を書くことになった(つまり、リードが師事した1940年代は、まだ「吹奏楽作曲家」ではなかったことになる)。皮肉なことに、現在では、ジャンニーニの名は、この時期に書かれた吹奏楽曲(特に本日の交響曲第3番)で知られることがほとんどである。

彼の初めての吹奏楽曲は、ゴールドマン・バンドのための《前奏曲とアレグロ》で、1958年に初演された。ほぼ同時期にデューク大学バンドからも委嘱が来て、その結果生まれた第2弾が、本日の《交響曲第3番》である。おなじく1958年中に初演されている。

曲名に「第3番」とあるが、これは「吹奏楽の交響曲」としての「第3番」ではない。彼は生涯に7つの交響曲を書いたが(最初の2曲は番号なし)、たまたま第3番だけが吹奏楽編成で、あとは管弦楽編成である。

全体は古典的な4楽章構成。曲中のいくつかの部分は、後年の《献呈序曲》で発展的に引用されている。

第1楽章 Allegro energico(力強く快速に)

曲全体の主要調性である変ロ長調のソナタ形式。堂々としたコンサート・マーチ風にはじまる。この部分は「ミクソリディア旋法」(古代ギリシャの音階)で、いかにも、伝統を重視したジャンニーニらしい技法である。やがてゆったりした第2主題、フーガ風の部分を経て、冒頭部を再現して力強く終わる。

第2楽章 Adagio(アダージョ)

変イ調。オーボエを中心とした木管群が寂寥感ただよう旋律を奏でる(第1楽章冒頭主題の変形)。最後には「perdendosi」(消え入るように)の指示があり、静かに終わる。典型的なABAの三部形式。

第3楽章 Allegretto(やや速く)

変ロ短調。ABABの二部形式。小ぶりな間奏曲を思わせるが、木管群の細かいパッセージに、金管群が悠々とした対旋律を重ねる後半部分が、ジャンニーニならではの見せ場である。

第4楽章 Allegro con brio(生き生きと速く)

再び変ロ長調のソナタ形式。第1楽章同様、堂々とした曲想ではじまる。木管中心の16分音符下降音型と、金管中心の8分音符上昇音型が、何度となく登場して競い合う。その後、トランペットがファンファーレ風のパッセージを奏し、バンド全体がそれに呼応するような形でクライマックスに突入する。

このあとジャンニーニが書いた吹奏楽曲は、《ファンタジア》(1963)、《献呈序曲》(1965)、そして彼の最高傑作とも称される《変奏曲とフーガ》(1965)の3曲——つまり、彼は晩年になってから、計5曲だけ吹奏楽曲を書いたわけだが、もっと生きていれば、さらに多くの名曲を生んでいたかもしれない。

なおTKWOは早くから本曲に取り組んでおり、最初が1972年4月の第14回定期(宇宿允人指揮)。以後、フレデリック・フェネル、ドナルド・ハンスバーガー、レイ・クレマーといった海外指揮者によって、定期だけで計4回取り上げており、本日が5回目となる。

A.リード パッサカリア

リードの師、ヴィットリオ・ジャンニーニ(前記)は、1966年11月に、63歳の若さで逝去した。

その翌年、1967年にアルフレッド・リードは、本曲《パッサカリア》を発表する。スコアには「2人の師、ポール・ヤーティンとヴィットリオ・ジャンニーニの思い出に」と記されている。つまり、恩師に捧げた追悼曲である(ポール・ヤーティンは、リードが10歳代のころに師事した、作曲家・ピアニスト)。

「パッサカリア」とは、もともとはスペイン起源の舞踏の名称であったが、ヨーロッパに広まるにつれて、低音部の旋律を繰り返しながら、変容する3拍子の旋律が上に重なる「変奏曲」となった(「シャコンヌ」も、ほぼおなじ)。

本曲も、低音部(チューバとバス・トロンボーン)が奏でる8小節の旋律を主題に、40回の変奏が展開する壮大な変奏曲である。最後の第39、40変奏以外は、すべて「8小節」の基本形が守られており、スピーディーに展開する。

全体は、吹奏楽曲に多い「序奏+ABA+コーダ構成」ともいえる。

【プロローグ】主題～第1変奏／【第1部】第2～18変奏／【第2部】第19～30変奏／【第3部】第31～37変奏／【終結部】第38～40変奏

重厚にして悠揚迫らざる展開、堅固な構成、管打楽器の特性を十二分に生かしたスコアリングで、数多いリード名作群

のなかでも、特に傑作といわれている。

全体の曲想は、師ジャンニーニが逝去前年に発表した《変奏曲とフーガ》に近く、おそらくリードが本曲の源泉イメージにしたと思われる。リードがいかにジャンニーニを敬愛していたかがうかがわれる。

TKWOは、本曲を2回録音しているが(フレデリック・フェネル指揮、秋山和慶指揮)、定期での演奏は、本日が初めてである。

A.リード 交響曲 第3番

リードは生涯に5曲の交響曲を書いた。そのうち、第2番とならんで名曲と称されているのが、この第3番である。米空軍バンドの委嘱で、1988年4月に初演された。名手揃いのバンドのために書かれたせいもあり、ほとんどの楽器に見せ場がある、最高難度の名曲となっている。全体は3楽章構成。

第1楽章 Pesante e molto sostenuto～Allegro agitato(重々しさを十分に保って～煽るように速く)

いきなりティンパニの連打に乗せて、重厚な響きではじまる。リード作品にしては、特筆すべき衝撃的な出だしである。一段落してAllegro agitatoになると、さまざまな旋律が複雑にからみ合いながら、一大伽藍を形成してゆく。

第2楽章 Slowly, with longing(but not dragging)(憧れをもってゆっくりと(しかし引きずらずに))

副題に《Variations on the Porazzi Theme of Wagner/ワーグナー《ボラッツィ主題》による変奏曲》とあり、独立して演奏されることもある有名な楽章。《ボラッツィ主題》とは、リードが敬愛していたリヒャルト・ワーグナー(1813～1883)が遺した、たった13小節の断片。《トリスタンとイゾルデ》作曲中の1858年頃にスケッチ。晩年の1882年頃、《パルジファル》の完成後に補筆し、ピアノ譜にして、妻コジマに捧げたといわれている(よって絶筆ともいえる)。そのころ、シチリア島パレルモの「ボラッツィ広場」の別荘で仕事をしていたので、通称《ボラッツィ主題》とも呼ばれる。また、ワーグナーが亡くなる夜、最後にピアノで弾いていたのがこの旋律だったとの伝説もある。

曲は、ワーグナーのピアノ譜どおりの響きではじまる。オーボエ、クラリネットなどが主旋律を奏で、第4変奏までつづき、クライマックスではワーグナー復活を思わせる曲想も登場。最後に主題が再現されて静かに終わる。室内楽のような美しい曲で、TKWOの桂冠指揮者フレデリック・フェネルは「リードの最高傑作」と評していた。

第3楽章 Allegro deciso(決然とした速さで)

リードお得意の、ファンファーレを思わせる壮麗な響きではじまる。一種の二重フーガで構成されており、絶え間なく旋律が追いかけあっているようなスピード感で疾走する。中間部では打楽器群がかなり強烈にフィーチャーされているが、これは米空軍バンドのマーチングのイメージだといわれている。この、打楽器群と管楽器群が拮抗するような展開を経て、見事な終結部になだれ込む。

日本初演は1989年6月、木村吉宏指揮の大阪市音楽団(当時の名称)だが、その3か月前に、作曲者自身の指揮でTKWOが録音している。

なお、TKWOは、第2楽章のみを、1996年12月の第59回定期で演奏しているが(フレデリック・フェネル指揮)、全曲演奏は、本日が初めてである。

※楽器編成の記述は、オリジナル・スコアに基づいており、本日の演奏では変更になることもあります。

〈敬称略〉

PROFILE | 楽団プロフィール



東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。
吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、多くの人々が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。
2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
正指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク
首席客演指揮者 …… 飯森範親
ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮 …… 大井剛史
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolos …… 丸田悠太(Flute)、伊藤愛	Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、 本間千也*、河原史弥、 間間健太、川村大
Flutes …… 前田綾子、白石法久	Horns …… 上原宏、堀風翔*、小助川大河、 葛西亮、端山隆太
Oboes …… 宮村和宏*、桜田昌子	Tenor Trombones …… 今村岳志*、石村源海、葛西修平、 東川暁洋
English Horn …… 上原朋子	Bass Trombone …… 佐藤敬一朗
Bassoons …… 福井弘康、依田晃宣	Euphoniums …… 岩黒綾乃(Baritone)、齋藤充
Contra Bassoon …… 君塚広明	Tubas …… 近藤陽一、林裕人
Clarinet in E♭ …… 松生知子	Contrabass …… 前田芳彰
Clarinet in B♭ …… 小倉清澄、大浦綾子、林裕子、 太田友香*、小野寺緑、加藤丈陽、 木内倫子、櫻田はるか、徳武敦	Timpani …… 坂本雄希*
Alto Clarinet …… 草野裕輝	Percussion …… 秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、 金井麻理、木下卓巳、斎藤祥子、 松下真也
Bass Clarinet …… 有馬理絵*	Harp …… 片岡詩乃
Contra Bass Clarinet …… 原浩介	
Alto Saxophones …… 田中靖人*、林田祐和	
Tenor Saxophone …… 松井宏幸	
Baritone Saxophone …… 栃尾克樹	
Bass Saxophone …… 完戸吉由希	

名誉楽団長 …… 庭野光祥	マネージャー …… 遠藤敬、井小萩浩之
楽団長 …… 林總太郎	ステージマネージャー …… 今井慎吾、勝川本久
佼成文化協会長 …… 菅野泰正	ライブラリアン …… 羽田紀子
コンサートマスター …… 田中靖人	制作 …… 久保慶恵
副コンサートマスター …… 宮村和宏	パーソナルマネージャー …… 富田真里那
インスペクター …… 堀風翔	総務 …… 牧野正純、佐原由起、勝川本久
企画委員 …… 原浩介	広報 …… 遠藤敬、荻沼美帆、今村俊博
	チケットサービス …… 荻沼美帆
	庶務 …… 出塚和良、小野寺龍一、石川済
	経理 …… 水本孝枝

Gold Members

サポーターズクラブゴールド会員(3口以上)の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。(2021年8月31日現在)

アシストジャパン	永瀬 敬至	古沢 秀明
佐々木 潤	平山 博通	横田 陽一
中江 亮	ピロッタ真緒	

PR Supporters

PRサポーターの皆さま

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

店舗等一覧

敬称略で掲載させていただいております。(2021年8月31日現在)

アル音楽教室	(株)池袋音楽学院
(株)コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター	(株)CAFUAレコード
ブレーン(株) 広島本社	吹奏楽webマガジン「Band Power」
ブレーン(株) 東京支社	吹奏楽専門ショップ「Band Power」
(株)管楽器専門店タク	大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ミュージックスクール「ダ・カーポ」	ドレミファクトリー
(株)セントラル楽器	フルーツ専門店テオバルト
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎	アトリエ・エム株式会社
管楽器雑貨専門店pitch	イシバシ楽器 横浜店
ザ クラリネット ショップ	フォルテ・オクターヴハウス
新潮講座・神楽坂教室	葡萄房 by THE CAMEL
(株)ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京	やしろ食堂
(株)永江楽器水戸	吹奏楽酒場「宝島。」
野中貿易(株)	金寿司
(株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店	フローリスト花六
宮地楽器 小金井店 ANNEX	中華 大栴

個人のお客様

渡邊 直子	樫野 哲也
-------	-------

PR
サポーター
とは?

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか?
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)
ご協力頂ける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

TKWO オリジナルグッズ好評販売中!

Original goods

新商品
登場!

ほかにも多くの商品をご用意しております。
ご購入・詳細はこちら



右肩部分

新オリジナルTシャツ

各1着 2,500円(税込)

会場限定/各1着 2,300円(税込)



オリジナルブラボータオル

1枚 1,700円(税込)

会場限定/1枚 1,500円(税込)

◎サイズ:34×86cm ◎素材:綿100% 今治産
国内で生産された今治産タオルに「BRAVO」がプリントされています。

※サポーターズクラブ会員の方はWEBからでも、会場限定価格でご購入いただけます。

Tokyo Kosei Wind Orchestra



会員募集中

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)はあなたのウインドオーケストラです!!
TKWOをもっと身近に感じて応援する仲間になりませんか?
サポーターズクラブに入会して、もっとTKWOの音楽を
より多くの皆さんに届けられるように活動を支えてください!

詳細はこちら



壮麗なるフレンチ・オーケストラレシーションの饗宴！

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

第156回 定期演奏会 / 第6回 大阪定期演奏会
#156 Subscription Concert / #6 Subscription Concert in Osaka

H.ベルリオーズ / 仲田 守 編 Louis Hector Berlioz / arr. Mamoru Nakata
序曲「ローマの謝肉祭」
Ouverture du Carnaval Romain

C.ベールマン / 大橋晃一 編 Carl Bärmann / arr. Koichi Ohashi
クラリネットのための軍隊協奏曲※
Militär - Konzert für die Clarinette op.6

C.ドビュッシー / 稲垣卓三 編 Claude-Achille Debussy / Takuzo Inagaki
クラリネットのための第1狂詩曲※
Première Rhapsodie (for Clarinet and Wind Ensemble)

C.サン・サーンス / 大橋晃一 編 Charles Camille Saint-Saëns / arr. Koichi Ohashi
交響曲 第3番「オルガン付き」
Symphonie No.3 ut mineur op.78, avec orgue
オルガン:新山恵理 Eri Niiyama, Organ



指揮・クラリネット※
ポール・メイェ
Paul Meyer, Clarinet, Conductor

©Shin Yamagishi

2021 東京 公演	11/23	TUE (祝) 開演:14:00(開場:13:00)	2021 大阪 公演	11/24	WED 開演:19:00(開場:18:00)
東京芸術劇場 コンサートホール			The Symphony Hall		

東京公演	※発売日調整中	S席 ¥7,000 A席 ¥5,500 B席 ¥4,000 C席 ¥1,500 各種割引 U25 ¥2,000 S60 ¥4,200 <small>(TKWOチケットサービスのみでの取扱) 団体・車いす・身体障害者手帳をお持ちの方には割引がございます。※割引の併用はできません。</small>
大阪公演	※一時販売停止中	S席 ¥6,000 A席 ¥4,500 B席 ¥3,000

<p>▼東京佼成ウインドオーケストラ チケットサービス</p> <p>お電話 0120-692-556 <small>(9:30-16:30 / 土・日・祝を除く)</small></p> <p>FAX 03-5341-1255</p> <p>メール ticket@tkwo.jp</p>	<p>▼WEBチケットサービス</p> <p>※定期メンテナンス:毎日3:00-4:00</p> <p>いつでも予約可能!</p> <p>座席指定 クレジット決済 コンビニでの支払・発券</p> 	<p>▼プレイガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チケットぴあ Pコード: 192-885 (第156回)、195-231 (第6回大阪) ●ローソンチケット Lコード: 33455 (第156回)、53843 (第6回大阪) ●e+ (イープラス) 	<p>《東京公演のみ》 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296</p> <p>《大阪公演のみ》 ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (10:00-18:00 / 火曜定休) https://www.symphonyhall.jp/</p>
--	---	--	---

※未成年者のご入場はご遠慮ください。※出演者・曲目・時間等は変更になる場合がございます。※お申し込み後の変更・キャンセルはお受けできません。※会員先行は、定期会員・サポーターズクラブ会員が対象。※公演中止の場合は払い戻しはいたしませんので、あらかじめご了承ください。※新型コロナウイルス感染対策ガイドラインに基づき、配席変更となる場合がございます。

主催: 佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ、ザ・シンフォニーホール (11/24)
後援: 一般社団法人全日本吹奏楽連盟、東京都吹奏楽連盟、公益社団法人日本吹奏楽指導者協会、公益財団法人日本音楽教育文化振興会、一般社団法人日本管打・吹奏楽学会、一般社団法人日本吹奏楽普及協会、日本コロムビア株式会社、株式会社テレビマンユニオン、公益財団法人としま未来文化財団 (以上11/23)

東京佼成ウインドオーケストラ事務局 TEL 03-5341-1155 <https://www.tkwo.jp/>

世界中の音楽愛好家へ捧ぐ完全永久保存版!

東京佼成ウインドオーケストラ 60年史

世界に誇るスーパーアンサンブル集団のすべてが凝縮
いま初めて紐解かれる、秘められた驚愕のエピソード
1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。



定価: 3,080円 (税込 / 本体2,800円 + 税)
四六判(本文132mm×191mm) / 丸背厚表紙 / 384頁
ISBN 978-4-10-910188-2

好評販売中!



結成3年目、第1回定期演奏会の模様。
1963(昭和38)年3月10日、杉並公会堂にて。指揮は、創設者のひとり、河野貴造・副楽長。この日は、ロッシーニ《セビリヤの理髪師》序曲、チャイコフスキー《スラブ行進曲》などが演奏された。

全国有名書店、および東京佼成ウインドオーケストラ事務局でお求めいただけます。
▼詳細はオフィシャルサイトをご確認ください。



2021-2022

定期演奏会スケジュール

第155～157回 定期演奏会

▶ 場所：東京芸術劇場コンサートホール

▶ 開演：14:00(開場：13:00)

第156回 | 2021年11月23日(火・祝)

指揮・クラリネット：ポール・メイエ

- ローマの謝肉祭／H.ベルリオーズ／仲田 守 編
- クラリネットのための軍隊協奏曲／C.ペールマン／大橋晃一 編
- クラリネットのための第1狂詩曲／C.ドビュッシー／稲垣卓三 編
- 交響曲 第3番 オルガン付き／C.サン・サーンス／大橋晃一 編

※1回券発売日調整中。詳細は決まり次第、公式サイト等でご案内します。



©Shin Yamagishi

第6回 大阪定期演奏会 | 2021年11月24日(水)

▶ 場所：ザ・シンフォニーホール
▶ 開演：19:00(開場：18:00)

指揮・クラリネット：ポール・メイエ 曲目・出演者は第156回と共通

※一時販売停止中。販売の再開については詳細が決まり次第、公式サイト等でご案内します。

第157回 | 2022年2月26日(土)

指揮：飯森範親(首席客演指揮者)

- 献呈序曲／C.ウィリアムズ
- アルメニアン・ダンス Part I, II / A.リード
- TKWO委嘱作品(世界初演) / 長生 淳
- 交響曲 第1番「アークエンジェルズ」 / F.チェザリーニ

会員先行：2021年12月15日(水) / 一般発売：2021年12月22日(水)



©山岸伸

大井剛史 正指揮者 任期延長のお知らせ

2014年1月にTKWO正指揮者に就任した大井剛史は、これまでその契約を2年ごとに更新して参りましたが、このたびさらに契約を更新し、2023年度末(2024年3月)まで任期を延長することとなりました。今後の大井とTKWOのさらなる取り組みに、どうぞご期待ください。

主催

佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ

提携

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

日本コロムビア株式会社

株式会社テレビマンユニオン

公益財団法人としま未来文化財団

<https://www.tkwo.jp/>

